

令和6年度 第1回住吉区総合教育会議 議事要旨

◆日 時：令和6年8月29日（月）14:00～15:30

◆場 所：住吉区役所 1階 第1会議室

◆出席者：

（委員）

浅田 裕見子 氏

伊井 義人 氏（議長）

糸井 由之 氏

桶土井 晴英 氏

尾畑 美智子 氏

行天 邦善 氏

島谷 裕美子 氏

高柳 めぐみ 氏

長吉 紀郎 氏

東山 美千代 氏

松本 洋子 氏

（オブザーバー）

苅田北小学校長 中西 泰代 氏

住吉中学校長 西堂 良紀 氏

（区役所）

住吉区担当教育次長（区長）橘 隆義

住吉区教育担当部長（副区長）樋口 幸生

住吉区教育担当課長（教育文化課長）柏木 眞里子

住吉区保健福祉課長 小西 宏樹

住吉区保健子育て担当課長 福田 利明

住吉区生活支援課長 稲岡 訓規

住吉区地域課長代理 隅田 嘉昭

住吉区教育担当課長代理（教育文化課長代理）佐藤 忠義

◆議題

(1) 総合教育会議について

- ・分権型教育行政の仕組み及び総合教育会議について、柏木区教育担当課長より説明。

(2) 令和6年度 住吉区における主な教育・子育て関連事業について

- ・【スクールソーシャルワーカー（SSW）配置】、【「すみよし学習クラブ」及び「すみよし学習クラブジュニア」自主学習習慣づくり支援事業】、【「学校園補助スタッフの活動支援」】学校園教育活動支援事業】について、柏木区教育担当課長より説明。
- ・【子ども・若者育成支援事業】について、小西保健福祉課長より説明。
- ・【こどもサポートネット事業】について、福田保健子育て担当課長より説明。

(委員からの主な質問、意見)

① 「学校園補助スタッフの活動支援」について、

- ・教員の負担軽減につながっていると考えられるので、教員が指導に集中できる環境づくりのためにも、漢字検定チャレンジ支援の予算を学校園補助スタッフの活動支援に移す等して、めりはりをつけた予算にすればよいのではないか。

- ・学校アンケートで、区が行っている支援が自校園の教育活動に役立ったと感じる割合が100%となっている。学校としては、補助スタッフの支援で助かっている状況だと思うので、予算を増額して教員の負担軽減につながればいいと思う。

→「学校園補助スタッフの活動支援」については、区役所の区まち予算で計上している部分で、「漢字検定チャレンジ支援」は、教育委員会の校長経営戦略予算という区担当教育次長枠予算のため、そのまま入れ替えることができない。予算の増額については検討する。

- ・業務の範囲はあるのか、学校の裁量で決めることができるのか。

→学校園補助スタッフの業務内容は、教員が行う業務の補助である。各学校園からサポートしてもらいたい業務の内容について、希望を出してもらっているが、業務の範囲の拡大については今後検討する。

- ・地域担当のスタッフを配置することができるのか。

→地域担当はないが、学校によっては地域の方が学校園補助スタッフを担っている場合もある。

- ・小学校としては、必要な場面で活用させていただき大変ありがたいが、教育委員会が採用している会計年度職員（特別支援教育サポーター、学びサポーター）との兼務が出来ないため、別の人に来てってもらうことになる。学校のニーズにマッチした人材を見つけられないことがあり、人員の確保が課題である。

② スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）配置について

- ・緊急時の迅速な対応、就学前から小学校入学後の切れ目のない支援について、ＳＳＷがどこまで関わることができるのか。

→教育文化課のＳＳＷについては、我孫子南中学校区を拠点としており、兄弟関係がある場合は、接続の小学校とも連携している。学校を通じて相談があり、各機関と連携を図っている。

こどもサポートネット事業のＳＳＷについては、拠点校は設けておらず、４名定員のところ現在欠員のため３名の配置となっている。

法定の事業ではなく大阪市の独自事業のため、保護者の同意を得て支援を開始している。

保健福祉の支援制度や子ども食堂などの地域資源につなげていくことが目的のため、子育て相談室内に配置して連携を行っている。

③ 「すみよし学習クラブ」及び「すみよし学習クラブジュニア」自主学習習慣づくり支援事業について

- ・アンケートは、生徒の回答が掲載されているが、保護者へのアンケートはとっていないのか。

→受講した生徒へのアンケートのみ実施している。

- ・すみよし学習クラブジュニアの、対象学年を小学５・６年生とした理由は何か。

→大阪市習い事・塾代助成事業の対象が小学５・６年生であることから、すみよし学習クラブジュニアについても小学５・６年生とした。令和６年１０月から所得制限も撤廃されるため、受講者の増加を見込んでいる。

(2)【『福祉施策ガイドブック』について】【はぐくみネット事業について】 柏木区
教育担当課長より説明。

(委員からの主な質問、意見)

- ・はぐくみネット事業について、パンフレットはとてもいいものを作成しているが、スタートした時とずれてきていると感じることが多い。

身近でも、はぐくみネットコーディネーター自身が何をしたいかわからないといったことを聞く。学校協議会でもはぐくみネットとの連携をとったことがなく、実際とは異なっている面が多くある。

→パンフレットは教育委員会が作成している。書かれていることがすべて機能すれば素晴らしいと考えるが地域によって温度差もある。各地域で様々な工夫をしながら取り組んでいると思うが、学校園や学校協議会を連携については、パンフレットに描かれているような形にはなっていないのが現実だと認識している。はぐくみネットの仕組みについて、一人でも多くの方に周知し意識づけをするためにも、広報等を通じて取り組んでいきたいと考えている。